



Profile:
1944年遠軽町生まれ
1963年より苫小牧へ 豊川町在住



久保さんはからくり仕掛けで頭としっぽが動くたぬきの手押し車や、パワーシヨベルを載せたトレーラーなど、温かみのある木のおもちゃを製作しています。出身地でもある遠軽町で毎年開催される、木のおもちゃ作りのイベントに参加したことがきっかけで、本格的に工具をそろえて作り始め、約10年になるといいます。

久保 くにまつ
国松さん

お手製の木のおもちゃ
ぬくもりが伝わります

使用する木はセン、ホオ、クルミ、オノコなどさまざまで、着色をせずに自然の木目や色を生かしているそうです。「木材は買ってすぐには使えない。反ったり曲がったりしないように、最低1年は乾燥させるが、その間の管理が大変」と久保さんは話します。それでも樹種で乾燥に差があるため、時間が経つとまれに作品の継ぎ目が割れてしまうこともあるとのこと。

作品のデザインは以前に作ったものを改良したり、一から考えて作るそうです。大きな切り株や、おもしろい形のごぶがついた木などを譲り受けることもあり、木を前にして「何を作ろうか」と考えるのも楽しいといっています。また「孫が喜んで遊んでいる姿を見ると、新しいものを作ってあげようと思う」と笑顔で話してくれました。



切り株をくり抜いて作った「たぬきの手押し車」



木材の角を丸く削っています

市民のひろば

ぼくのわたしの夢 とまこまいの子どもたちの夢

聞いてみました!



紺谷 恭平くん
(東小学校6年)

紺谷君は将来建築士になりたいというしっかりした夢を持っています。そのきっかけは、テレビで建築士の仕事を観て、あこがれを抱いたことと言います。建築士になったら、自分で設計した建物を作りたい」とはにかみながら夢を話してくれました。学校での好きな科目は、図工や体育で、また、野球も頑張っているそうです。これからは「算数の勉強をしつかりして、工業系の道に進みたい」と力強く話します。「自分の設計した建物がまちにあるべし」と紺谷君。まちにたくさん紺谷君の設計した建物ができる、その素敵な夢がかなうと良いですね

小・中学生の皆さんの「夢」を200字程度に書いて、写真を添えて送ってください

今月の表紙



～保育園のもちつき～

12月3日(水)にすみれ保育園で行われたもちつきの風景。園児たちは小さな杵(きね)を握り、大はしゃぎでもちつきをしました。当日は約4.5kgのもちをつき、園児みんなでおいしく食べました。

タウンスケッチ

～まちの出来事～



昔の食生活を実感する「ソバの実をたべよう」



勇弘小学校3年
石郷岡 萌さん

昔の食生活を体験する目的の生活体験教室「ソバの実をたべよう」が、12月6日(土)に勇弘津資料館で開催。当日は小・中学生など30人が参加し、石うすでソバ粉を作り、それを練ってそばかきにしました。完成したそばかきはきな粉をつけたり、お雑煮風にして食べ、ソバの味を楽しみました。参加した石郷岡さんは「おソバが大好きで、食べるのを楽しみにしてました。作ったおソバはとてもおいしかった」と笑顔で話してくれました。

ねんりんピック2009
卓球交流リハーサル大会



今年9月開催の高齢者のスポーツ・文化・福祉の祭典、ねんりんピック本大会に先駆け、11月22日(土)に卓球リハーサル大会が行われました。会場の総合体育館には、全国各地から49チーム約250人が集結し、苫小牧は2チームが参加しました。選手たちは軽快な動きで、熱戦を繰り広げました。

生活に身近な水引を知る
水引でつくるお正月飾り



水引の歴史や形の意味を知る目的で、12月13日(土)に博物館で水引で作るお正月飾りの講習会が開催されました。水引とは飾り紐のこと。約1400年前からの歴史があるものです。参加した小学生14人は、当日学んだ結び方のあわじ結びで、お正月のお祝い膳で使うハシの飾りを作りました。

私のギャラリー My gallery



明徳町
増上 幸保さん

ズボン掛け
(木彫)

材料から形を切り出すところから始め、形や柄のデザインは全て自分で考えました。縦に長い部分は竹の絵をつけ、ズボンを掛ける部分は竹のように細工しました。竹の絵をつける作業が一番大変でしたが、完成したときは喜びがわいてきました。



木場町
橋 久美子さん

桜のトレイ
(ラタン工芸)

籐(とう)を編みこんで作っています。1つ目のトレイを作ったときに花びらに見えたので、5つ並べたら花に見えると思い、自分でデザインしました。花に見せるため中心に花粉管をビーズで作り、全体をピンクに染めました。作成に約2カ月かかりました。